

「春は名のための風の寒さや」

戻り寒波に震え上がった 2 月でしたが、いつの間にか野山ではネコヤナギが膨らみ路の臺が顔を出し春がそこまで来ているようです。

現在の皆様の最大の関心事は、コロナウイルス感染症が長引く中、ワクチン接種がこの村でどのように行なわれるのかという事ではないでしょうか。全国的に先行接種として、医療従事者への接種が 2 月 17 日から始まりました。一般の皆様には、65 歳以上の高齢者から 4 月以降に始まる予定と報道されていますが、ワクチンの調達状況や配分方法については未だ情報不足で、各自治体にワクチンがいつ届けられるのか現時点では分かっていません。

国や県からの情報が入り次第、接種に関する正確な情報を御案内してまいりますのでしばらくお待ちいただきたいと思います。

コロナウイルス感染症の影響で様々な我慢を強いられる生活が続き、暗いニュースや筋の通らない話が多く聞かれるような気がしてなりません。こういう時こそ心温まる話題や未来に希望が持てるニュースが欲しいものです。というわけで、最近の明るいニュースをいくつか紹介します。

コロナ対策の地方創生交付金を生かしたフォレストスタイル事業の成約キャンペーンの効果が出て、令和 3 年になって江南市、稲沢市など、2 か月で 5 件の上棟式に参加してきました。この事業では 20 棟の契約成立が見込まれています。次に、新世紀工房の取引先である一宮市の葬儀社の家族葬向けセレモニーホールが、本村が提携している同じ一宮市の建設会社の施工で完成し、内覧会を見学。地元の新聞社の取材もあり、白川茶と東濃ひのきのコラボが取り上げられて大いに宣伝になりトップセールスとなりました。

また、永年の課題であった国有林(越原)の“水源の森”としての保全について、岐阜森林管理署との覚書を交わすことが出来ました。

さらに、先月お知らせしたこもれびの里のレストラン改装工事がいよいよ始まりました。隣接するウッドデッキの工事も始まり、新装開店が楽しみになっています。

寒さが厳しかった今年の冬はとても長く感じられましたが、艱難辛苦(かんなんしんく)を耐え抜いてこそ大きな喜びが得られる事を信じて春を待ちます。

3 月は一年の中でも年度の締めくくりの月であり、新年度に向かって様々な準備を進める月でもあります。新年度への希望に胸を膨らますことができる 3 月にしたいと考えています。

令和 3 年 3 月

東白川村長 今井俊郎